

第61回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和5年7月7日（金）午後1時から午後3時30分まで

2 場 所

愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3 出席者

委員 5人

説明のために出席した者 15人

4 傍聴者

0名

5 議 題

- (1) 2022年度業務実績について
- (2) 第三期中期目標期間における業務実績見込について
- (3) 役員報酬規程の改正について

6 議事概要

【2022年度業務実績について】

- 愛知県公立大学法人の2022年度業務実績について、法人からヒアリングを行った。

【第三期中期目標期間における業務実績見込について】

- 愛知県公立大学法人の第三期中期目標期間における業務実績見込について、法人からヒアリングを行った。

【役員報酬規程の改正について】

- 原案について「意見なし」とした。

【質疑】

(1) 2022年度業務実績について

○ 委員

県立大学の項番1について、複数学部連携型授業を4科目開講するという指標に対して、実施結果としては、3科目を開講となっています。確かに全学部連携型授業は1科目開講するという指標に対して、実施結果は3科目と大きく伸ばしているのですが、総合的に考えてIV評価という判断をしたということだとは思いますが、複数学部連携型授業の今後の進め方について、お伺いしたい。

○ 県立大学

去年開講出来なかった科目については、グループで実施するものでした。昨年度の4月に募集するときには、まだコロナの影響がかなり大きくて、学生達もグループワークに対しても抵抗があったようで、数名は集まったのですが、グループを組むまでには至りませんでした。コロナによる不可抗力の影響があったものですから、今年度はきちんと集まって開講することが出来ています。そういう状況ですので、今年と来年は順調にいくのではないかと考えましたので、全体的に見てIV評価というふうに出させていただきます。

○ 委員

芸術大学について、以前訪問した際に、修復やプロジェクトに大変感銘を受けた記憶があります。項番40の修復プロジェクト等については、大変素晴らしい蓄積があると思っております。

そこに合わせまして、項番45のところ、地形劇場の観覧席整備についてすごいなと思ったのですが、クラウドファンディングでお金が集まったのもすごいのですが、これから年間どのくらいの公演を実施していく予定があるのか教えていただければと思います。

○ 芸術大学

実はすでに4月23日に、地形劇場のこけら落としのコンサートを行いました。地形劇場は、屋外なので屋根がなく非常に暑かったのですが、思った以上のお客様に来ていただきまして、地形劇場のコンサートが終わって、続けて室内楽ホールのマラソンコンサートの第二部も行いました。地形劇場については、野外なので屋根がありませんので、天候に左右されます。その場合には、奏楽堂に移してやることを考えています。あと、地形劇場でオーケストラをやろうとすると、楽器の運搬費ですとか、様々な経費がかかります。年に1回は少なく

ともやっていきたいと考えています。ただ、第一義的には、学生達の自由な発想によりやっていくのが重要でありますので、それは今後の課題とさせていただきたいと思います。

○ 委員

項番46のトップマネジメント事業の予算額について、業務費総額の1%と言ったときに、業務費が高騰していることにも影響してくることは、気の毒だなと思って聞いていたところですが、中身を見ますと、ジブリパーク開園に合わせた広報費用としてデジタルサイネージを放映したこともトップマネジメントのお金を使っているようです。金額でいうと、1%以上という基準はクリアしないといけないというふうになってしまうのだけれど、こういう有意義なことをしたということが対外的に訴えることができると、頑張っていることが理解できるので、そのように説明して頂けると良いと思います。

○ 大学法人

昨年度のことで申し上げますと、県政150周年ということで、日タイの合同シンポジウムなどを150周年記念の連携事業を県とタイアップしまして、実施をしております。それから先ほど少しご説明申し上げましたけれど、農業総合試験場と両大学で実施しましたシンポジウム、こういったものにトップマネジメント費用として支出しております。このトップマネジメント事業というのは理事長、学長がリーダーシップをとって力を入れていくものとしておりますので、今後とも力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

○ 委員

県立大学については、昨年度から実施している新教育プログラムや、三菱みらい育成財団からの補助金を活用した事業など、着実に新しい科目が開講しており、素晴らしいことだと思います。同時に、こういう事業は担当者が変わった場合に、途端に失速してしまうとか、特定の人にのみ負担が大きくなってしまい、その後の運用やカリキュラムの見直しが難しくなってしまうことがあり、結局最初の数年間は大変素晴らしかったのだけれど、その後尻すぼみになってしまう。そういうことを私の大学でも耳にするところでもあります。学長においては、今年度で任期を終えられるということで、素晴らしい成果を挙げられていると思いますが、今後サステイナブルにディベロップメントするような体制について教えていただきたいと思います。

○ 県立大学

大変よくあることをごさいます、立ち上げた時は良いですけど、その後継続していくことが大変だということは、仰るとおりだと思います。私どもも、この点について、気を付けてやっていきたいと思っておりますけれど、一つには同じ教員だけでやるということをしていないということでもあります。つまり、なるべく多くの教員に担当してもらって、少し凸凹はあるかもしれませんが、多くの教員が経験することによって、少しずつ底上げすることが大事と考えています。一つ3年の区切りで、その橋渡しのところを今から考えていくということをごさいます。

それから、もう1点は、三菱みらい財団の補助金のことですけれども、3年間で2000万円でしたので、本学にとっては大変大きな予算でした。ただ、そのほとんどは、機材を購入するという形で予算を使いましたので、次の学生がそれを使って教育を受けることができます。そういう意味では、継続化できると考えております。データサイエンスなどは、既に外部評価を2つ受けておりますけれど、中身をより良い形に整えていきたいと考えております。

○ 委員

芸術大学については、本会議に先立って事前に説明を頂いたときに、勘違いをしておりまして、ピント外れのことを聞いてしまいました。現在、芸術大学は日本中どこも苦境に立たされております。特に音楽学部は悲惨な状況だと言えるかと思えます。上野学園が学生募集を停止したと聞いたときは、私も大変ショックを受けました。さらに新型コロナウイルスの中では特に大きな影響があったかと思えます。コロナ禍が終わって、研究面、教育面でも積極的に演奏会を開催できるようになったことは素晴らしいと思いますが、立派な成績を収めた学生等も含めた形で演奏家として今後一線の方たちと経験を積むようなキャリア支援、教育、研究活動を横断するようなプロジェクトを立ち上げるというようなご検討の可能性はありますか。

○ 芸術大学

日ごろから学生と教員が一緒になって、演奏会を行うこともしております。ですから「室内楽の饗宴」に関しても、優秀な学生が入っていると思います。それは今回始めたということではなくて、10年ほど前から行っていることだと思います。

○ 芸術大学

教員と学生のコラボレーションというのは、15年以上前から定期的にやっ

ております。音楽大学は、実は教員と学生がコラボレーションするということ
は、公開の演奏会ではあまり無いことです。というのも、公開するには、学生
のレベルと教員のレベルがあまりに違うとできないのですが、本学の場合です
と、優秀な学生を選抜して一緒にやるということをやっとやっております。
今回も、花崎先生のプロジェクトもそうですし、4月に新しい劇場のこけら落
としイベントでも、教員が学生を巻き込んで一緒にやったり、学生が企画した
ものに教員が加わったりと、様々な形でコラボレーションをやっています。

○ 委員

それに関連して、室内楽の演奏の内容をホームページでも見ることができる
のですが、それらを全て綿密にチェックした訳ではないのですが、誰がどのよ
うな曲目を演奏するのか、ホームページ上でよく分からなかったのが、今後さ
らに充実してもらえると、もっとアピールできると思うので、お願いしたいと
思います。

○ 委員

私はコロナ禍の中で、評価委員に就任しましたので、実際には計画が実施で
きななかったことが多々あったかと思われま。今は少し緩和されて、皆さん交
流できるようになって、本当に良かったなと思っています。その中で初めて、
県立大学の学長のお話をお伺いしたときに、データサイエンスとか多文化の分
野について、学部を超えて教育するという事は、本当に大事な事だと思っ
ています。県立大学で申し上げますと、項番4とか項番22にあります。看護
学部が県立大学にありますので、大学というのは、自分が学んでいることが
将来社会にどのように役に立つかということを常に気持ちの中に持ったう
えで学業に専念して欲しいと思っています。データサイエンスやICTと言っ
たものを駆使しつつ、看護の仕事が効率化できればと思います。情報科学部が
協力して、看護師の仕事をいかに効率的に行うことができるのかということ
を考えていますか。

○ 県立大学

仰られたことはとても大事で、5学部連携ということにずっと取り組んで来
ましたが、その中で、情報と看護、情報と教育福祉、看護と教育福祉、色んな
ものと掛け合わせることによって、本来目指している職業より豊かに効率よ
くなっていくのではないかと思います。副学長の1人が看護学部におります
ので、補足をしていただきたいと思います。

○ 県立大学

今のご質問にうまく答えられるか分かりませんが、データサイエンスへの招待という教養科目そのものが、必ずしもICTだけではなくて、データというものの自体をどうやって捉えるか、どうやって分析するかといった幅広いことを学べるようになっております。看護の現場も、技術を先輩から学ぶというだけではなくて、自分たち自身で現状を正しく分析して、クリエイティブにケアを行っていくということが求められていますので、そのためには、非常に大きな基盤になっているのではないかと考えております。

また、医療の現場も、AIや情報技術が非常に入り込んでおりまして、今後はそういったことにも対応できるような看護師を育てていかないと考えております。

また項番4と関連しますが、AIでコントロールされるタイプのシミュレーターがあり、特にコロナ禍で現場に行けなかった時には、非常に役に立ちましたし、学生が資格を持つ前の実習において患者に直接接するということがどんどん難しくなっておりまして、そういう中では、このシミュレーターを購入して、実際の臨床現場に近いような形で演習ができるので、今必要になってきている機器を購入できたかなと考えています。

さらに、別の予算で整えましたのは、3Dマッピングができるような教室を用意しまして、より臨床に近い緊張感溢れるような形で実践的な教育に役立てていきたいと考えています。お答えになっているか分かりませんが、よろしくお願ひします。

○ 県立大学

補足をさせていただきます。本学のデータサイエンスは、他大学とは趣が異なりまして、情報科学部の教員がサポートするのですが、5学部の教員がそれぞれ授業を持っていることが特色となっております。と言いますのは、データサイエンスと言っても、それぞれの学部によって、どのように役立つのか、その学部の先生が教えることによって、自分の学びや卒業した後の職業などへの道筋を分かりやすくすることができます。通常は数学の先生が持つのですが、それだと文系の学生が途中で脱落することが多いと聞いておりまして、興味を持って最後まで勉強できるような形にしております。看護だけでなく、他の学生達もそのような形で履修ができるようにしております。

○ 委員

ありがとうございました。思った以上にそれぞれ詳細を決めて、具体的な教育をされていることが分かりました。芸術大学でございますけれど、コロナの

影響を受けているなど感じておりました、今は普通に活動できるようになって、良かったなど感じております。その中でも、地域連携ですとか貢献について、色々活動されていると思ったのですが、芸術というのが芽生えるのが、小学生とかの時代に文化的なものを吸収する機会がない子もいますので、もちろんコンサートを開いたり、展示会を開いたりすることも大事だと思いますけど、せっかく愛知県でこれだけ素晴らしい芸術家が揃っているの、自治体とか学校との連携を積極的に考えられたりしたら良いかなと思います、その辺りのお考えはどうでしょうか。

○ 芸術大学

最近では、小中学校における芸術教育の授業数の減少ですとか、教員も専任教員を置かず非非常勤でもってまかなうといった問題があります。2022年度の実績には載ってありませんが、実は今年度、日進市教育委員会と協定を結びまして、日進市の子供たちに、我々の教員と学生が現地に行き、個別指導し、最終的には、演奏会を開くというものが既に立ち上がっています。8月2日に日進市市民会館で演奏会をやることになっております。皆様ご存じだと思いますが、今後中学におけるクラブ活動が地域の方に移行していくことが決まっております。それに関しても、今後もっと色んなところから要請があると思います。我々の優秀な卒業生がおりますので、彼らを派遣させていただいて、彼らにとっても自分の勉強にもなるし、そういった対応をする予定です。

○ 委員

ありがとうございました。日進市からどんどん広げて頂けると良いなと思います。この地域は、ものづくりの地域ですけど、アートや芸術的想像力というものも大事だと思っています。その辺りも是非積極的に取り組んで頂けたらと思います。

○ 芸術大学

現在でも高校生とか中学生とか、大学に見学に来ております。うちはいつでもオープンにしている、例えば実際制作しているところを見せたりとか、専攻によっては小学校、中学校向けの授業を単発でやったりとか、学校へ派遣して壁画を制作しています。社会連携センターの方で、いくつかの授業を見られるようにすることを、随分前から行っています。

○ 委員

県立大学において行われている改革について、学生への効果はどのように把

握されておりますか。そして把握したデータをどのようにフィードバックしておりますか。

○ 県立大学

教養教育改革のところでは、現在のところ、データサイエンスにおいて外部アンケートを取ったり、授業アンケートを取っています。ただ、アンケートを取って把握したことを、どうやって学生に返していくか、そこが不足していると思います。教員の方ではFDなどで議論をしていますが、学生へ戻すというところが難しい。アンケートを取るのが一番最後の授業になるので、アンケートを取っても、もう授業は終わっていますので、その学生たちには返すことがうまくいっていないことが一番の大きな課題だと考えています。ただ、学生からアンケートで出てきたもので、改善しなければいけない点については、教員が把握して次の授業に生かしていくということはやっています。

○ 委員

ありがとうございます。私の学校もアンケートの回収率が低いのとせっかく出てきたアンケートの意見に対しての先生からの回答率も低いという課題があります。県立大学においては色んな取り組みにチャレンジしておりますので、新しい取り組みが出来ていく素地があるのではないかと思います。他の大学の見本となるようなものを作ってもらえたら良いと思います。

○ 県立大学

ありがとうございます。アンケート回収率は非常に高いです。回収率は高いですが、フィードバックのところは課題であると考えております。

○ 県立大学

今、学長からアンケートについて言及がありましたけど、アンケート結果を各教員が見て、簡単に言うと、それについて自分が反省をすることになっていて、それがネット上にオープンになっていて、学生が見ることができます。評価に対して、自分はどのように考えたか。もちろんその学生が良いと評価したところをベースに書きなさい、改善できるところを書きなさいと。大きい項目が2つあるんですけど。問題はオープンになって、学生もアクセスできて、ちゃんと教員は自分たちのことをどう考えたかという、言わば反省文を見ることが出来るのですが、時期が最後になってしまうために、どうしても学生としては、アンケート答えたし、あとは休みだ的な感じになってしまう時期にあるので、例えば途中にそれを設けて、みんなはこうやって評価したけど、これちょ

っとそう思わないけど、何かそういうことができると、実質的フィードバックになっていくのかなと思うんですが、それはまだ課題のままです。アンケート実施の時期の問題は今後考えていかないといけないです。

○ 委員

全部IV評価ということなんですけど、例えば項番5について、「コミュニティ通訳学コース」を設定しておりますけど、新しくコースを作ったということでのこの評価なのか、もしくはコースを作ったことにより想定していた更なる効果があったからこの評価なのか、その辺りどうでしょうか。

○ 県立大学

ありがたい質問でございます。実はこのコースを開設した大きな効果として、良かったのは、大学院を受ける学生が出てきたことでもあります。つまり、国際文化研究科というのは、定員未達問題で喘いでおりました。要するに定員に足りない。それに中の学生が大学院を受けない。ところが、このコースを作りましたところ、中の学生が複数人受験をしました。学生たちはこのような問題に関心を持っていたことが分かりました。もう1つは想定内だったのですが、社会人が受けてくれました。こういう活動をボランティアでしている方々、常勤でしている方々、色々いらっしゃるのですが、外国籍の方の言語面のサポートを色んなところでしている方がいますので、そういった方が受けてくれました。

そういう方が受けてくれるのではないかというのは、ニーズ調査で分かっていたのですが、中の現役の学生が受けてくれたというのが非常に嬉しかった。そして、実際に授業を始めたら、社会人と学部から上がってきた学生と一緒に授業を行うのですが、知識量が全然違う。実際に活動をしている社会人は、色んなことをご存じ。学生はもちろん知らないなので、同級生から教わることになる。逆に社会人の方にレポートに書いてもらおうと、レポートを書くイロハは学生の方が勝っているそうです。そういう形で、背景の違う院生同士がとても良い勉強が出来ているという効果がありまして、大学としても定員未達問題が一気に解決したということで大変喜んでおります。今年度で2年目なのですが、今年度も学生が入ってきています。まだ卒業生は出ておりませんが、ニーズは高いと実感しております。大学にとっての未達問題も解決できましたし、学生と社会人のニーズも把握することができたということが大きいと考えております。

○ 委員

芸術大学についてですが、名工大では、来年度から共通科目に芸術の分野が

立ち上がります。少しでもうまく続いていけば良いと思っています。項番33については、自己評価Ⅲとなっておりますが、この項番は非常に大きな話で、カリキュラムの見直しという話以外に、FD活動も入っております。指標にはFD活動の記載がありませんが、FD活動はどのように実施されて、どのような効果がありましたか。

○ 芸術大学

FD活動については、主となるものは授業アンケートでございます。それを元に集計結果をまとめて冊子にしてフィードバックしています。ここをⅢ評価としたのは、メディア映像専攻を作ったというだけで、それから先のことはこれから数年待たないと結果を見ることはできません。カリキュラムに関しても、美術学部の彫刻専攻については施設が新しくなるので、施設が新しくなることによって、カリキュラムを再編しました。音楽学部については、まさに今取り掛かったところです。このようなところからⅢ評価としております。

○ 芸術大学

彫刻専攻は、今年度建物が出来て、次年度から始動していきます。ただ単に建物が出来るだけではなくて、戦後の彫刻史に関係してくるのですが、彫刻には4つの分野があります。木彫、石彫、鋳造、彫金。これは非常にオーソドックスなものなのですが、それが今複合アートとか、現代アートとか色んなものに関わってきて、4つで作っていくことが難しい転換点に来ています。そうしたものを転換するような新たな枠組みを彫刻専攻が考えています。そのコンセプトに基づいた新しい新彫刻棟が出来つつあります。ただ、まだ出来ていないので、Ⅲ評価となっております。

○ 委員

カリキュラムの見直しについては、なかなか毎年出来ることではないと思いますが、FD活動は毎年コストもかけずに出来るのではないかなと思いますので、そういったものをここに記載すれば、Ⅳ評価に持っていけることも出来ると思いましたので、ご検討頂ければと思います。

法人につきましては、先ほど他の委員がお聞きしたことと同じことですので、省略させていただきます。

○ 委員

県立大学におかれましては、学長が進めてこられた改革が成果を上げて、着実に発展しているということが分かり、大変感銘を受けました。特に新教養教

育カリキュラム「県大世界あいち学」ですとか、項番18に関連して、学長特別研究費を設けて研究体制を強化したことは大変素晴らしいと思っております。2021年度から研究推進局を設けられて、科研費の申請や学長特別研究費による研究推進費など、様々な形で研究力の強化に大変強力に取り組んでいただいていると思います。今回、学長特別研究費に採択された4件を拝見しますと、ロボットが関係していたり、社会実装に期待ができるものがございました。さらに次のステップに進むにあたり、社会実装を進めるうえで、県立大学独自の体制の方がいいのか、もしくは芸術大学も社会実装が問われていますし、先ほどの名工大の話にも関連しますが、今後のイノベーションの推進にはアートが重要であることを考えますと、両大学を総括する法人の方で強化した方がいいのか。社会実装につながるような産学官連携推進のための組織の整備は、現在どのような体制になっていて、今後どのように発展させる考えがあるかをお聞き出来たらと思います。特に研究成果と社会実装のマッチングの分野でなにかお考えがあれば教えてください。

○ 県立大学

今委員が仰ったことは、喉から手が出るほど欲しいところでございます。また、芸術大学と一緒に会議をしていく中でも、そのような話題が良く出てくるようになりました。例えば、URAなどでも、一大学ではとても持てないものですから、二大学を束ねている法人のところでもやらせてもらえば、大変ありがたいと考えております。実際先ほど、芸大の学長の説明にもありましたけど、芸大と県大の情報科学部が一緒になって、アートと情報科学の掛け合わせで、科研Aが取れた訳です。科研Aというのはなかなか取れなくて、Bがいくつかあるくらいです。掛け合わせによってA以上のものをもっていく。そうじゃないと、なかなか厳しいので、社会実装も含めて、新しい研究を打ち出していく。そこにはマッチングさせて、実際にそれを育てていく。そして外部資金を取って発信していくことが必要だと考えております。これは県立大学にとっても、切実な思いでございまして、是非法人の理事長にもお願いしたいと考えております。

○ 大学法人

私も4月から理事長ということで、まだ3か月ということで、まだあまり偉そうなことは言えないのですが、外から見ていると、特に県大が持っているシーズをもう少し芸大とやっていくとか、実際には色々やっているのですが、まだまだやれるポテンシャルはいっぱいあると思います。やはり、これまで以上に、顔の見える温かい県大・芸大にしていきたいなということで、そろそろ第四期中期計画をこれから作り込んでいかなければいけないので、学内で話を

始めているところです。今後は、そういったリソースや施設をしっかりとマスターするようなものを作っていきたい。今のところ3か月目には大きな夢を持っておりませんが、これが萎まないようにやっていきたいと思います。芸大では、AIが進んでいる中で、アートが世の中から大変求められているということを感じておりまして、名工大や名大や豊田工大など特に理系の大学を持っているところから特に求められている。そういったものがあるなかで、もっと県大・芸大で形にしていけるんじゃないかと思っております。ぜひそういったことに取り組んでいけるよう頑張っていきたいと思っております。

○ 委員

大変期待しております。先ほど学長からも話がありましたが、県大と芸大がコラボして科研費Aが採択されたことは、大変快挙だと思います。まさに両方の強みを掛け合わせて大型の研究費が取れたことは素晴らしいと思いますので、ぜひこれに続くような大型の科研費がとれるように一層頑張ってくださいと思います。それから、芸術大学についてです。芸術大学もコロナ禍で大変な中、学長の強力なリーダーシップで多くの活動が展開され、特に項番41の地域連携・地域貢献に関して、またさまざまな教員の芸術活動や、卒業生・学生も含めた形で芸術活動の推進が行われてきたことは大変素晴らしいことだと思います。地形劇場が整備されて、こけら落としも大盛況だったとのこと、大変嬉しくお話をお伺いしました。それからウェブサイトの全面リニューアルで、さすが芸術大学という非常に洗練されたお洒落なデザインになって素晴らしいと思います。ただ、辛口なコメントになって心苦しいのですが、英語のサイトを拝見しましたところ、デザインがとても素晴らしいのに、英語がかなりまずく、きちんとネイティブの方にチェックしてもらった方が良かったかなと思いました。国際的な発信力に力を入れておられていると思いますので、事前の質問事項への回答として、2023年度中に英文ウェブサイトを見直していくと書かれていたのですが、そんなゆっくりではなく、出来れば今週中くらいに修正していただきたいと思った次第です。スペルミスだけではなく、せっかくの大学の歴史や概要など素晴らしいコンテンツですのに、英語表現がまずいので、ぜひ早急にご対応いただくようよろしくお願いいたします。先ほどのコメントと被るのですが、項番41については、名古屋大学で開催されたコンサートも、大変素晴らしい演奏だったと聞いており、そういった形のアウトリーチが非常に重要だと思います。今後、愛知県の教育委員会と覚書を結んで、日進市だけでなく、全県に展開するような仕組みが出来ると、河辺先生から先ほどサステナビリティのお話が出ましたが、次世代の芸術活動を支えていく大学として発展が期待できると思いますがいかがでしょうか。

○ 芸術大学

専任教員は音楽に関しては30名しかおりません。皆さんはご存じか分かりませんが、教員数は美術が49、音楽が30の合計79しかいないです。県全体というとなかなか難しいです。当然ながら名古屋音楽大学や名古屋芸術大学とタイアップしながら、そういったことをやっていくことは必然として、これから3年くらいの間には必ずそうなっていきます。これは先ほども申し上げましたけど、クラブ活動を教員はみません、それを誰かにやらせていくと。我々としては、学生達、卒業生に声をかけてそういったところに送り出していくという考え方だと思っております。まだ仕組みはありませんが、必ずその方向へ行かざるを得ないと思っております。

○ 委員

先ほどは芸術大学について、お答えいただきありがとうございました。考えてみれば、芸術分野というのは、美術ならば昔は工房で師匠と弟子が一緒に作る。音楽であれば師匠と弟子が隣り合って演奏しながら技術を教育していく、そういうことがずっと行われてきたと思います。つまり、教育とキャリア支援と、師匠筋の創作活動が実は密接に結びついていたのかなと思います。ところが、例えば、項番33、36、39のような形にしてしまいますと、そのような一体的な活動がどうしても特色として取り上げにくくなってしまいます。また、指標としても示しにくくなる。例えば、項番40の科研費ですが、科研費の対象となることになりますと、ここにあるような文化財修復、あるいは研究のようなものになってしまいます。実際の本来の中心分野である創作だとか、演奏活動というのはなかなかこういう外部資金の対象にはなりにくくなる。また、もちろん数は少ないけど、賞というのがありますが、これは大先生が受賞する特別なものということになってしまいます。しかしながらこの科研費というような形で基準がありますと、これを基準として評価委員はどうしても判断せざるをえなくなってしまう。そこで、科研費というような形にはならないけれども、こういうことが芸大の美術学部の特徴である。しかも分野横断型のこういう試みがある。そういう独自の指標のようなものを積極的にご提案いただければいいのではないかなと思います。もちろん、それらがすべて客観的なものかどうかという議論はあろうかと思いますが、そういうものを積極的にご提案頂くと、評価委員が判断する際に配慮しやすくなるので、ぜひともご検討ください。

次に県立大学に一つ教えていただきたいことがございます。アンケートの回収率が高いということで、素晴らしいと思えました。私が所属しているところ

でも、以前は紙ベースで行っており、それなりの回収率があったのですが、ネット上でとなった途端に、以前の3分の1程度に落ち込んでしまいました。高い回収率は、どういう工夫で実現しているのか教えて頂ければと思います。

○ 県立大学

私の知る限りなのですが、通常授業アンケートをするときには、WEBで学生がやるのですが、授業の始まりと終わりに期間を設けて、今から5分間だけはアンケートに答えてもらえる時間、自分の時間を使って、出来るだけアンケートに参加するようにしております。その時間の活用があることによるのではないかと思います。

○ 委員

よろしいでしょうか。それでは、他にご発言が無いようですから、次の議題に移りたいと思います。

(2) 第三期中期目標期間における業務実績見込について

○ 委員

時間が非常に押しておりますが、本日は3時30分に終了の予定でございます。通常は、前年度の業務実績のみを評価することになっておりますけど、今回は、ただいま事務局にご説明いただきましたとおり、今回は、加えて、第三期中期目標における業務実績見込につきましても評価をするということで、通常とダブルの評価を行うことになっております。今回の委員会では十分な時間が取れない可能性があり、あらかじめ申しますと、事前に事務局とご相談させていただきまして、次回8月3日の第2回目の評価委員会を1時間延長することとし、本日十分に議論が出来ない部分は第2回で法人側に改めて色々ご説明を伺ったり、こちらから確認させていただく予定です。従いまして、本日はどうしてもお聞きしたいということにつきまして、各委員からご意見を賜ればと思います。ご意見いかがでしょうか。

○ 委員

よろしいでしょうか。一応申しますと、今回の委員会で、2023年、2024年度分の見込も含めて、期間全体を評価することは非常に難しいため、次回まで約一か月ございますし、第3期中期目標・中期計画期間の途中で就任された委員もおられますので、2019年からの評価関連資料を事務局より各委員にお送りいただくこととしております。それで2019年度からどのように各項番

の評価をしてきたかを、ホームワークとして、各委員には一ヶ月間で読み込んで頂いて、次回8月3日の第2回評価委員会でさらに色々ご質問いただきたいと思います。委員の皆様からはこの場でのご質問がございませんでした。私も時間管理の観点から質問は控えさせていただきたいと思います。1点、せっかく委員の皆様がお集まりでいらっしゃいますので、先ほど次期第4期中期目標中期計画に関して、議論を開始されたというお話もございましたので、少し申します。前回、昨年度の最後の評価委員会で、委員からは、せっかく高く評価したいのに、指標がこれだから高く評価できない、という意見が多く出されました。そこで、第4期中期目標・中期計画を策定するにあたり、指標に関しては、まず検証可能であることは大前提ですけど、どのような指標であればその活動が正当に評価されるかについて、ぜひ工夫していただければと思いますので、よろしく願います。

それでは、ご意見ございませんでしたので、議題3に移りたいと思います。

(3) 役員報酬規程の改正について

○ 委員

今回の説明につきまして、御意見、御質問があれば挙手をお願いいたします。

(挙手なし)

よろしいでしょうか。それでは、ご意見が無いようですので、評価委員会としては「意見なし」ということにさせていただきます。

本日予定しておりました議題は、全て終了いたしました。長時間にわたり、円滑な運営に御協力くださりまして誠にありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

○ 愛知県

委員の皆様、長時間に亘り、丁寧な質疑をありがとうございました。

私ども、設置者の県としましては、今の議論を聞かせていただきまして、例えば、地域連携・地域貢献についても、県同士の各局の連携ですとか、研究課題の展開につきましては、県としても色々ご協力できる場所が多々あると感じながら聞かせていただきました。新しい理事長をお迎えして、第4期の計画に向かって進んでいく訳でございますので、県としてもこの計画策定に支援ができるように取り組んで参りたいと思います。参考になることばかり聞かせていただきました。ありがとうございました。

○ 事務局

ありがとうございました。今回の時間配分について、配慮が不足し申し訳ございませんでした。次回8月3日に開催する評価委員会では、本日の質疑を踏まえ、評価の素案につきまして、ご審議いただく予定でございます。先ほど、委員長がご説明していただいたとおり、1時間延長させていただきます。よろしくお願いたします。本日委員の皆様には様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。時間が足らなかったということもございますので、追加でご質問やご意見がございましたら、メールで学事振興課あてにいただければと思います。7月21日を目途に、送って頂ければと思います。送っていただきました質問につきましては、次回8月3日の評価委員会の中でご回答させていただきますのでよろしくお願いたします。本日は長時間に亘りありがとうございました。

以上

会議録署名人

会議録署名人